

開 会 挨拶

座長 中村 信一

開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

今事務年度は、「テレワークの進展等を背景とした北陸地域への新しい人の流れ」をテーマに開催しております。

前回、昨年12月のプラットフォームにおきましては、コロナ禍におけるテレワークの普及をきっかけに、地方への新たな人の流れが生まれている、という状況を確認いただいたうえで、北陸地域にとって、人の流れを呼び込むための魅力ある地域資源は何か、またどのような課題があるか、といったテーマで皆様にご議論いただきました。

その中では、北陸地域の生活そのものが東京圏にとっては魅力的に映るのではないか、あるいは、まずは北陸地域に足を運んでもらうことが大事ではないか、といったご意見などがございました。

本日は、そうした議論をさらに発展させ、北陸地域に人の流れを呼び寄せる具体的な戦略は何か、について皆様にご議論いただきたいと考えております。

特に、地域の魅力や特徴をいかに活用していくか、また、地域の各関係者がいかに連携するか、といった観点が重要ではないかと考えているところであります。

そうした観点における好事例のご紹介といたしまして、本日は、大変お忙しい中、鳥取県関係人口推進室長の森田様、また、NPO法人エル・コミュニティ代表の竹部様にご登壇いただき、それぞれの地域における取組について、ご説明をいただきます。

鳥取県におかれましては、コロナ以前から、関係人口の創出を政策目標として掲げ、地域が一体となって、全国に先駆けてワーケーション推進に取り組んでこられました。

また、竹部様におかれましては、鯖江市における、眼鏡や漆器に代表される伝統的なモノづくりの文化や、IT推進といった地域の特性などを活かして、地域に人を呼び込む仕掛け作りを数多く行っておられます。

お二方のプレゼンテーション、そのあとの北陸財務局からの説明も踏まえ、北陸地域としていかに取り組むべきか、皆様方にご議論いただき、何らかの方向性を見出すことができれば、地域に対する良い提案となるのではないかと考えております。

メンバーの皆様方には、本日も、積極的かつ活発なご発言をお願いしまして、簡単ではありますが、座長挨拶といたします。

以上